

草津市の自然

滋賀自然環境
研究会調査

2014

草津市は、滋賀県内でも都市化が進む市のひとつである一方で、多様な自然環境を有しています。

昭和53年(1978)に『草津市の自然』を調査して35年が経過したことから、自然環境の変遷をとらえ、地域の生態系保全の基礎資料とするため、平成24(2012)年度から平成25(2013)年度にかけて、地形と地質、植物(植生と緑環境、植物相)、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、淡水魚類、水生動物、昆虫類の調査を行いました。

地形と地質

大地は、私たち人間をはじめすべての生き物が生きる基盤です。

山地は岩石、丘陵地や湖岸段丘は主に砂礫層から構成されていることがわかりました。

市の面積の75%は沖積低地で、土砂におおわれており、古くから生活の場として利用されていることがわかりました。

ヨシ原(村長昭義)



水生植物群落(村長昭義)



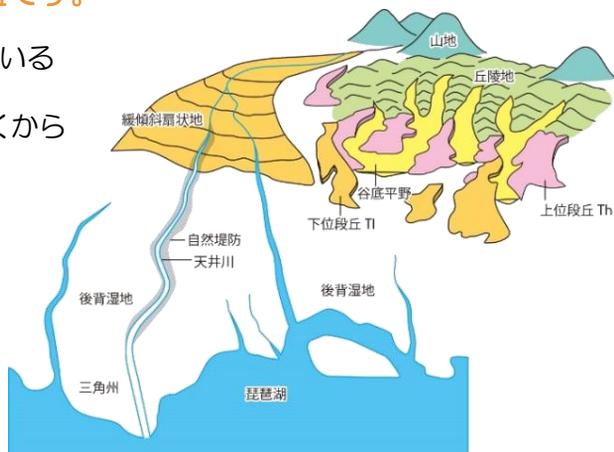
ヤナギ林(村長昭義)



水田(村長昭義)



畑(村長昭義)



【沖積低地の地形イメージ図】

植生と緑環境

私たちが自然を眺めるとき、まっ先に目に入るのは、自然を特徴づけている植物の集団、植生です。

- 川や琵琶湖などの水辺には、ヨシ原やヤナギ林など自然度の高い植生が生育していました。
- 市街地では神社などに樹林が点在していました。
- 市南端に、里山のアカマツ林やクヌギ・コナラ林などの樹林が分布していました。
- 35年前の緑の量と比べると、丘陵地の樹林、平地の水田や畑が、市街地や工場に変わり、大変減少していることがわかりました。

【現存植生図】

植生単位の具体的な広がりを地図上に示しました。

※詳細は「草津市の自然2014」をご覧ください。

アカマツ林(大谷一弘)



クヌギ・コナラ林(大谷一弘)

草津市環境課

草津市草津三丁目13-30

電話:077-561-2341

FAX:077-561-2479

植物相

草津市の植物相とは「草津市内に生育する植物の全種類」のことです。

- 1287種を確認しました。そのうち268種は帰化植物でした。
- ヒメビシ、ミズタカモジグサなど、絶滅が危惧される植物52種を確認しました。



哺乳類

哺乳類が生息できるようなまとまった森林がほとんどないため、生息する哺乳類は限られています。

- 大型の種ではシカ、イノシシ、小型の種ではコウベモグラ、テンなど合わせて11種を確認しました。
- そのうち、アライグマ、ヌートリア、ハクビシン、ペットの犬が野生化してしまったノイヌの4種の外来種が確認されました。



鳥類

美しい羽模様、特徴ある鳴き声、地球規模で季節的に長距離移動する鳥類。カラス類を除いた優占度の高い上位8種を紹介します。



- 調査では、113種を確認し、そのうちの52種は絶滅が危惧される鳥類でした。
- 湖岸地域のヨシ原では絶滅が危惧されるサンカノゴイなどが確認されました。
- 猛禽類では、チュウヒ、オオタカ、コチョウゲンボウなど12種が確認されました。

両生類・爬虫類

その姿から嫌われることも多い両生類や爬虫類。食物連鎖において、大変重要な位置を占めています。

●身近な種類



ニホンアマガエル(岸邊優)



トノサマガエル(田邊真吾)



ヌマガエル(森本真琴)



ナゴヤダルマガエル(田邊真吾)
滋賀県レッドデータブック2010年版の絶滅危機増大種であり、県の指定希少野生動植物種でもあります。全国各地で激減していますが、県内では比較的多く見られます。水の豊かな水田や水路が多いためと考えられています。



ニホントカゲ(江頭幸士郎)



ニホンカナヘビ(江頭幸士郎)



ヒバカリ(江頭幸士郎)

- ・ 調査では、両生類を11種、爬虫類を13種確認しました。
- ・ 南部の山地で多くの種を確認しました。
- ・ 湖岸の水田地帯では、絶滅が危惧されるナゴヤダルマガエルを確認しました。

淡水魚類

滋賀県内には約70種の淡水魚が見られますが、市内で約半分の種の生息が確認されました。そのうちのいくつかを紹介します。

●市内に広くすむ魚



オイカワ(前畑政善)



中央がニゴイ(前畑政善)



絶滅危機増大種の
アブラボテ(前畑政善)



希少種のモツゴ(長田智生)
ため池で確認された魚類は13種と少なかったのですが、河川や水路ではまったく確認されなかったモツゴが5つの池で獲れました。



カワムツ(前畑政善)



下の2個体がスゴモロコ
絶滅危惧種(前畑政善)



絶滅危機増大種の
メダカ(前畑政善)



タモロコ(長田智生)



ナマズ(前畑政善)



絶滅危惧種の
ワタカ(前畑政善)



ため池の野池における
景観(長田智生)

- ・ 調査では、34種（亜種を含む）を確認しました。
- ・ 水路では、絶滅が危惧される魚類9種を確認しました。

水生動物

主にタモ網を使って水中の昆虫類、貝類、エビ類などの小動物をすくい取って調査しました。魚類・両生類・爬虫類を除いたものを紹介します。

●流水性の水生動物



ヒゲナガカワトビケラ 幼虫



ヒゲナガカワトビケラ 成虫



ゲンジボタル 幼虫



ゲンジボタル 成虫

●止水性の水生動物



ショウジョウトンボ 幼虫



ショウジョウトンボ 成虫



コシマゲンゴロウ



ヒメガムシ

●希少種



キイロサナエ 幼虫



シマゲンゴロウ

- 昆虫類105種、甲殻類7種、貝類13種、その他4種、計129種の水生動物を確認しました。(平井規央)
- キイロサナエやシマゲンゴロウなど、絶滅が危惧される水生動物9種を確認しました。

昆虫類

動物のなかで種類が多いのは、昆虫類です。
皆さんも身近な自然で昆虫を探してみませんか。



オオシオカラトンボ(松田征也)
シオカラトンボより大型で、オスは濃いめの水色。成虫は7~8月のため池や水田などで見られる。成虫はカやハエなど飛翔する小昆虫を捕食している。



オオカマキリ(松田征也)
草地にすむ。チョウセンカマキリ(カマキリ)に似ているが、より体が大きい。後翅の根本には紫褐色のまだらがある。肉食性でチョウやセミ、バッタなどを捕食する。



クマゼミ(松田征也)
都市部の公園や街路樹などに多い。大型のセミ。7月下旬から8月にオスは「シャシャシャ」と鳴く。メスは木の枝などに産卵する。都市部で増えている。



ナガサキアゲハ(中邨徹)
幼虫の食草である柑橘類の栽培面積の増加や地球温暖化の影響で広がったとされる。

- 1368種を確認し、そのうちの35種は絶滅が危惧される昆虫類でした。
- ナガサキアゲハなど、温暖化の影響で北へ分布域が拡大したといわれている種が確認されました。
- 35年前の調査と比べると、外来種が増加していることがわかりました。

オオセンチコガネ
(高石清治)
樹林に生息。シカなど大型哺乳類のフンをエサとする。山寺町で確認。滋賀県RDBでは分布上重要種。



大切な自然を守るために、私たちにできること

1 自然に親しむ

- 野山や川に出かけて季節を感じ、自然を身近に感じてみましょう。
- まちの木々にいる昆虫や川の魚など、身近な生き物を観察してみましょう。
- 水族館や植物園、博物館に行ってみましょう。
- 植物を育ててみましょう。

2 自然を守る

- 野生の生き物をむやみに採ったり傷つけたりしないようにしましょう。
- ペットや外来の植物は、最後まで大切に育てましょう。
- 生き物を育てるときは、飼育や栽培が禁止されている種でないか確認しましょう。
- 地域で行われている自然観察会や自然体験のイベントに参加しましょう。

3 自然を伝える

- 家族やお友だちに、身近な自然のすてきなところについて教えてあげましょう。